©walavie

多様な防災文化の醸成

ー大槌高校復興研究会のインドネシア・アチェ訪問の報告ー

一般社団法人walavie
細江　絵梨

目次

[メッセージ]
防災文化の在り方・継承の方法は様々、きっかけは多様に

[内容]
1. walavie/スタディツアー概要/アチェ　等の紹介
2. 現地での様子
3. 渡航後の所感報告（動画、アンケート報告）

[おわりに]
大津波から19年経過したアチェの様子

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

一般社団法人walavie

- 当団体は、岩手県釜石市・大槌町を中心に活動しています。
- 東日本大震災以来、被災地へ多様な機会提供支援を行ってきた細江（代表理事）と、高校生の伴奏支援を行ってきた常陸（理事）の２名で設立しました。
- 2022年3月の設立以来、釜石市内・大槌町内の中学校や高校と連携して、生徒の居場所提供や国際協力・交流の機会提供を行っています。
- 復興庁「令和5年度地域づくりハンズオン支援事業」に採択され、「海外・途上国へ向けた若年層の自発的な防災・伝承活動を促進す るスキームづくり」の事業計画策定に向けて伴走支援をしていただいています。

仙台で開催された国際会議
「WorldBOSAIForum2023」へ
釜石高校・大槌高校の生徒を
引率・プログラム参加

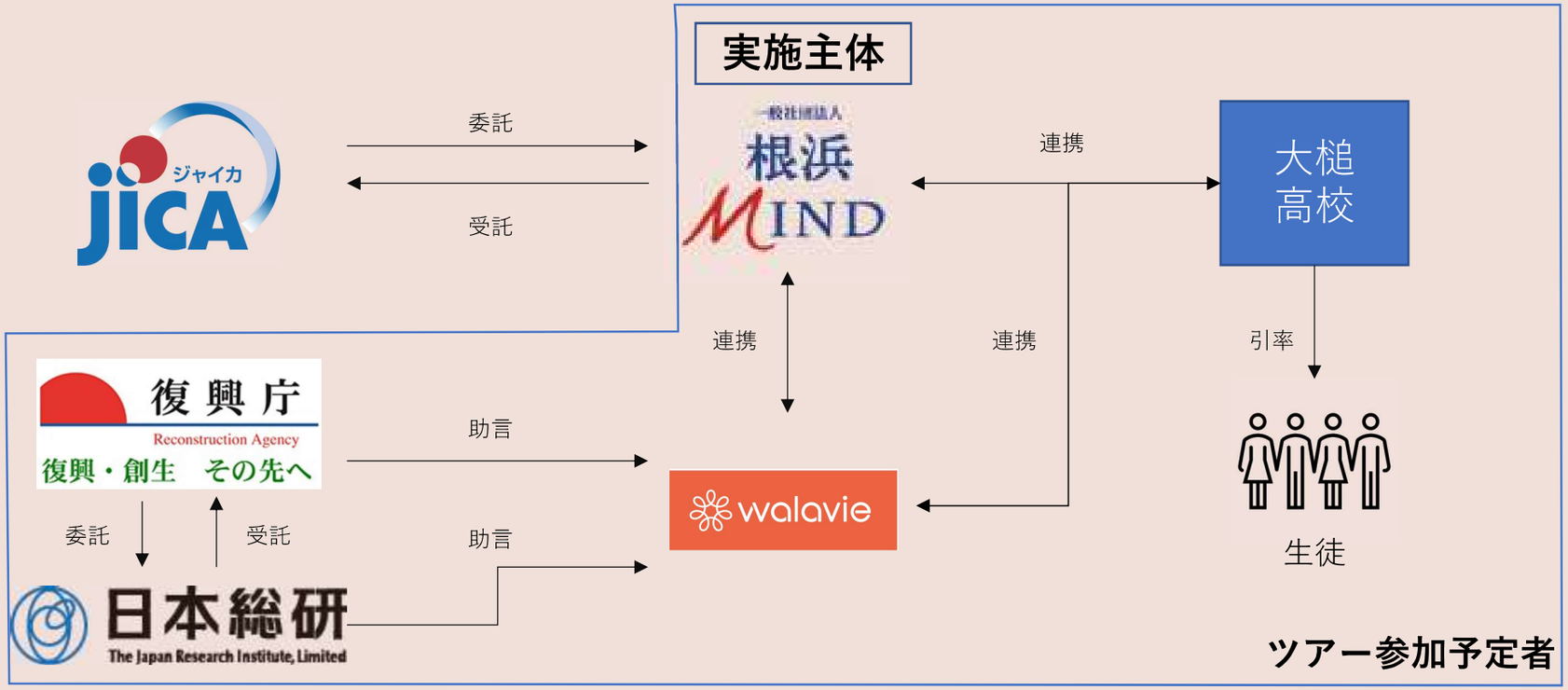
ポーランドで開催された国際会議
「WordUrbanForum」に参加・情報発信

社　　名	一般社団法人walavie
代表理事	細江絵梨
構　成　員	4名
所　在　地	岩手県釜石市鵜住居町第22地割 38番地2前川民宿内
メ　ー　ル	e.hosoe@walavie.org
設　立　日	2022年3月24日
事業内容	国際協力・国際交流事業の企画運営等

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

大槌高校生徒のアチェスタディツアー実施スキーム

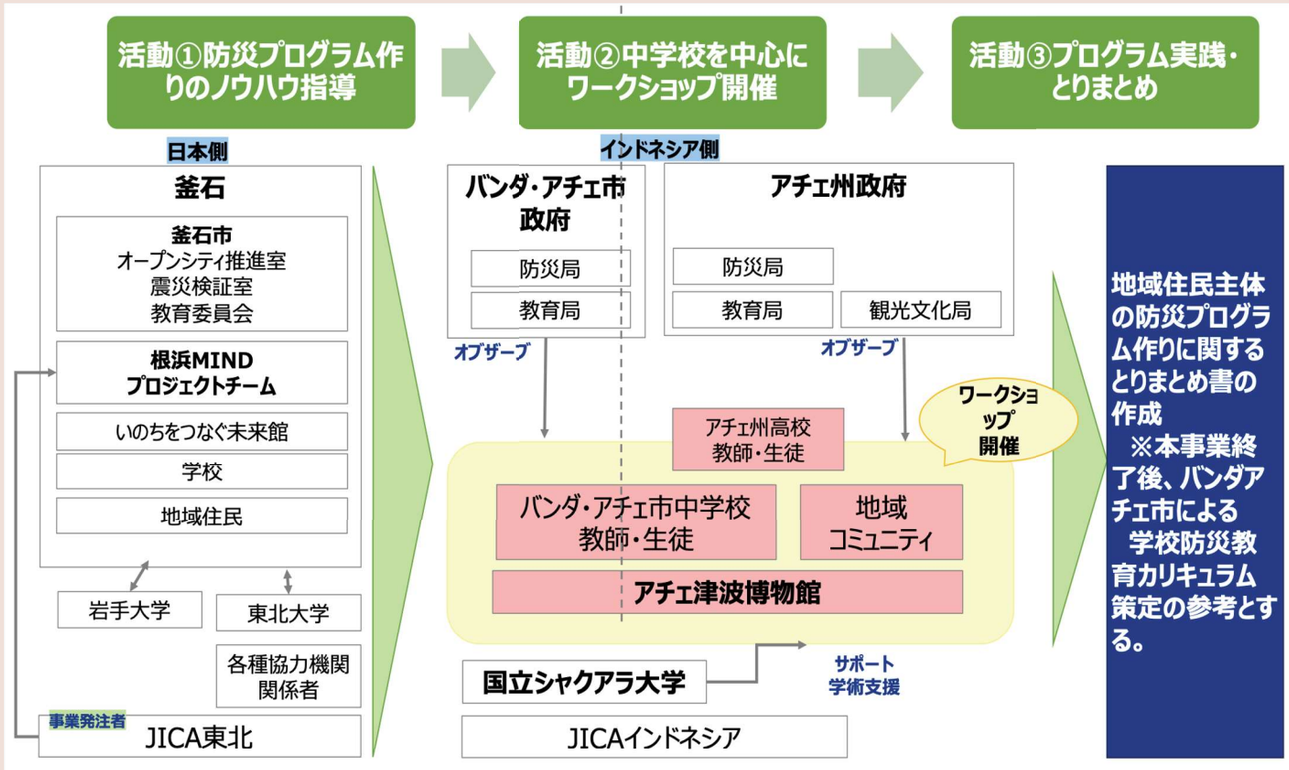
- 本取組は（一社）根浜MINDが受託するJICA「草の根技術支援協力事業」の一環で実施した。
- （一社）walavieは、現地プログラムの支援に加え、渡航前・渡航後の研修を別途実施。この（一社）walavieによる活動の支援として復興庁「ハンズオン地域づくり支援事業」に採択され、株式会社日本総合研究所、復興庁にサポート頂いた。



©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

JICA草の根技術協力事業　※（一社）根浜MIND

目　　標：ターゲットエリアにおいて地域住民主体の防災プログラムが実践される
実施期　：２０２２年９月～２０２５年８月（３年間）
申請者　：釜石市（窓口：オープンシティ推進室　ノウハウ支援：震災検証室、教育委員会、危機管理課）
実施者　：一般社団法人根浜MIND
カウンターパート：アチェ津波博物館（管轄：アチェ州観光文化局）



©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

岩手県立大槌高校　復興研究会

【参加者】岩手県立大槌高校　復興研究会（４名）

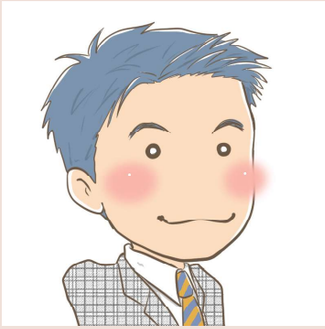
- 東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県立大槌町だが、大槌高校は津波や大火事の被害を免れ、避難所として活用された。
- 復興が進む過程において様々な角度から生徒もまちづくりに参加し、貢献してきた。その取り組みが継続・展開し現在の復興研究会に繋がっている。
- 主な活動は１．定点観測　２．他校交流　３．キッズステーション　４．防災・まちづくり
- 特に「１．定点観測」は2013年から大槌町内180箇所のポイントを写真撮影し、変わりゆく街並みを記録している、当会を代表する取り組み。

○ 参加した生徒

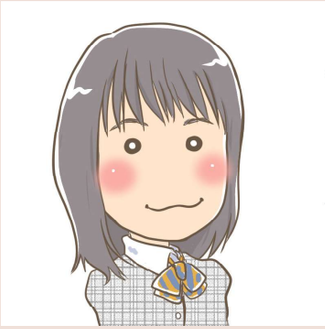
「WorldBosaiForum2023」にも参加した、2年生の以下4名の生徒がアチェスタディツアーに参加。

兼沢美雨

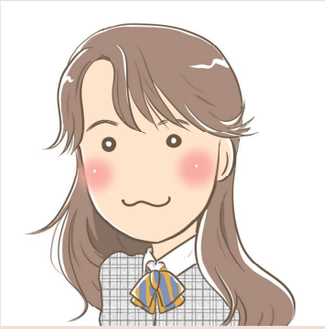
菊池康介



飛田冴英



矢作梨



©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

インドネシア・アチェについて

- 2004年のスマトラ沖地震による大津波で甚大な被害を受けた
- 30年以上内戦が続いていたが、津波により和平協定が成立した
- アジアを含め国際社会から多くの支援を受けた
- 学校教育において、岩手のような県・市における「防災教育の手引／いわて復興教育副読本」等はない
- 9割がイスラム教徒

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

研修及び渡航に係る企画の課題意識とねらい

【課題意識】
- 人口減少著しい岩手県大槌町に生まれ育つ若年層が、同一コミュニティの中で成長することによる“世界観の狭さ”
- 東日本大震災から時間が経過することで、震災そのものを経験していない世代が増えることによる震災の風化と防災意識の低下

【狙い】
- 関係性の構築（コミュニティの拡張）や防災の学び合いにより、双方の地域内での震災伝承及び防災意識の継承につなげる
- イスラム教が98%を占めるバンダ・アチェ市を訪問し滞在することで、異なる生活様式を実際に経験し異文化理解の促進を図る（日本側）
- そのような異なる文化・宗教に触れることで自分の「思考の前提」を振り返る。多面的・多角的な視点をまなぶ（日本側）
- 日常ではない環境へ身を置くことで、「一歩チャレンジする（コンフォートゾーンを広げる）」

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

スタディツアー全体像（事前事後研修の実施）

- 思考を整理するための「事前研修」と「事後研修」を実施

事前研修

【10月～12月に全4回実施】
1. インドネシア及びバンダ・アチェ市の文化・宗教・生活様式を知る
2. 現地で伝える内容の検討／現地スタッフとオンライン語学研修
3. 発表資料準備／渡航前“思考”の整理／渡航目的の整理
4. 安全のための講習受講／思考の整理＋発表資料確認

Indonesia(Bahasa)	English
nama saya / ナマサヤ	my name is…
Terima kasih / テリマカシー	thank you
Apa itu / アパ イトゥ	What is this?
Apa kabar / アパ カバール	How are you?
yah / ヤ	yes
tida / ティダッ	no
indah / インダッ	nice / cute
pedas / ペダス	spicy
suda / スダ	done
Berapa banyak / ベラパバニャック	How much?

1	2	3	4	5
サトゥ	ドゥワ	ティガ	ウンパッ	リマ
6	7	8	9	10
ウナム	トゥジュ	ドゥラパン	スンビラン	スプルー

事後研修

【２月～3月に全3回実施予定】
1. 渡航の振り返り
2. 目的達成度評価
3. 思考の深掘りと整理
4. 報告会準備

３月９日（土）
仙台防災未来フォーラムに
登壇します！

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

スタディツアー全体像（現地渡航）

- プログラム実施にあたり現地国立大学シャクアラ大学及びアチェ津波博物館に全面協力いただく

現地渡航

【12月17日～12月24日の全7日】

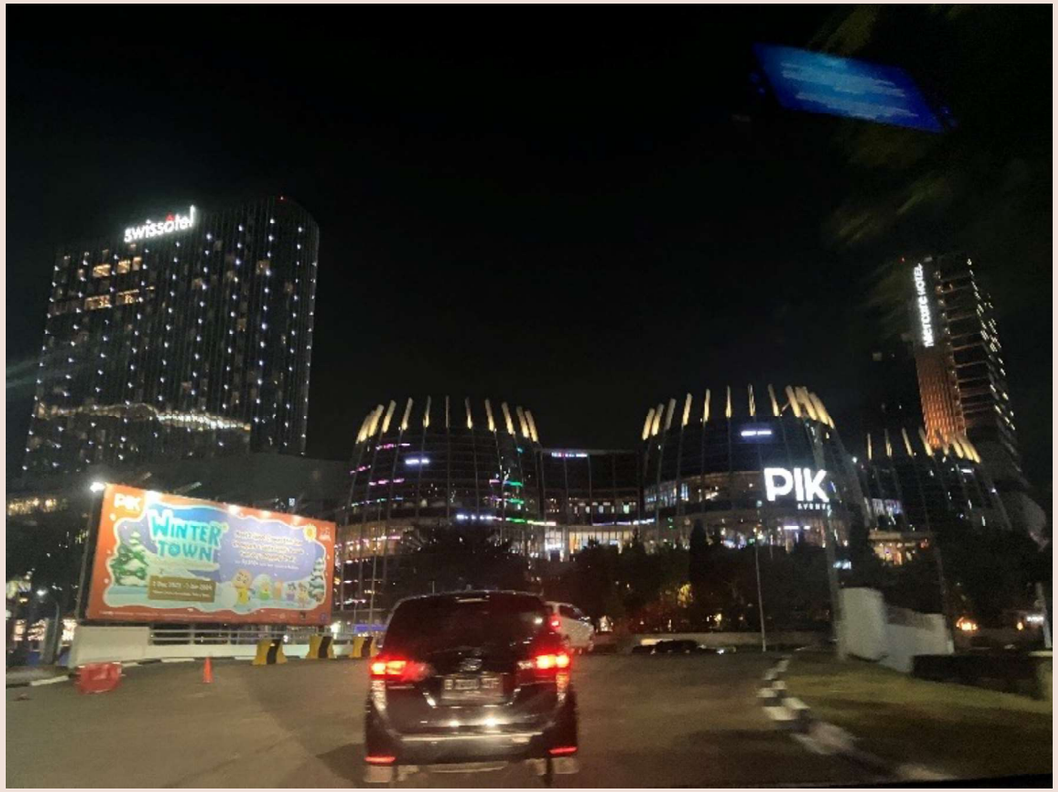
1. 現地国立大学の津波・災害研究センター視察
2. 現地の高校生と交流及び防災に係るディスカッションプログラムの実施（一泊二日）
3. バンダ・アチェ市の被災コミュニティ視察
4. 防災のためのマングローブ植林活動
5. 現地中学校を訪問し防災授業の実施
6. アチェ津波博物館見学
7. 「モスク」にてイスラム教体験

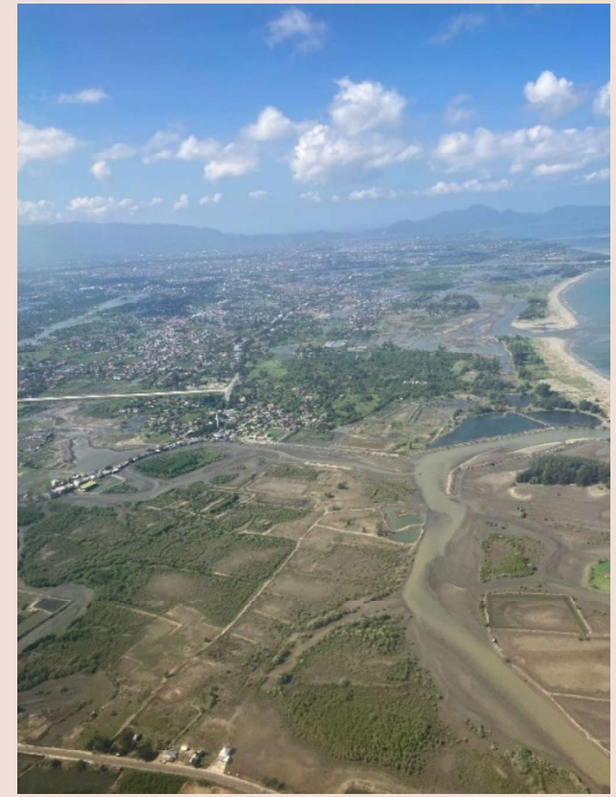
©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

©walavie

現地研修の様子

大都市ジャカルタから地方都市アチェへ





©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

©walavie

現地高校生との
一泊二日の学習交流プログラム

シャクアラ大学TDMRC(津波災害軽減研究所)訪問

建物の倒壊に
係る研究装置

シャクアラ大学TDMRC訪問

津波発生装置の説明と実演

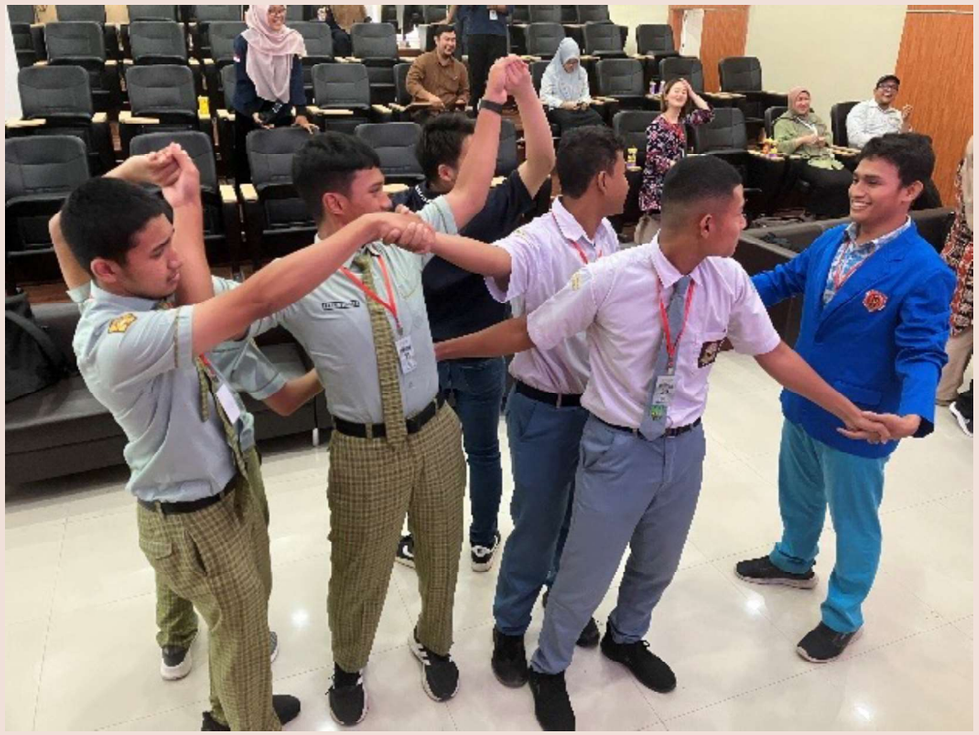
【その他】

- 世界の自然災害のデータ収集
- 地域住民に周知する装置の開発
- 住民向け防災ゲームアプリの開発

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します

現地高校生と初対面

大槌高校の生徒が考えた人間知恵の輪ゲーム



©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

現地研修の様子　被災エリアの視察・体験交流

津波から逃げるアプリケーションゲームの説明（左）と実演（右）

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

現地研修の様子　被災エリアの視察・体験交流

Kaju村の婦人会と交流・マングローブ粉によるブラウニー試食

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

現地研修の様子　被災エリアの視察・体験交流

マングローブ植樹体験

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

現地研修の様子　津波防災に係るディスカッション

もしあなたが、津波が来ることを知っている状態で、
2004年のスマトラ沖地震の前にタイムスリップしたらどうする？

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。

現地研修の様子　一泊二日の締めくくり

車座で振り返り（左）と修了証書受領（右）

©walavie　本資料の無断利用及び転載を禁止します。